

5 c 南

ほぼ平坦な浅い砂地でところどころ小岩がある。大潮時には干上がる位の深さである。藻場は140mから始まり、180~270m、330~400mに多い。ベニアマモとリュウキュウスガモがほとんどで、ウミジグサとウミヒルモがわずかに混ざる。海草湿重量は350g/m<sup>2</sup>であった。

(6) 水納島

島の北西側は広い礁池があり、南東は浅い岩盤になっている。調査線は島の南側やや西寄りに400mを設定した。

150mまで平坦な砂地で、以後なだらかに深くなり、340mからリーフフラットになる。干潮時南東に向う速い流れがある。

藻場は25~200mまでほぼ一様にある。リュウキュウスガモが主体で、ウミヒルモがわずかにある。海草湿重量は250g/m<sup>2</sup>でそれほど濃くない。

(7) 多良間島

北側と西側にそれぞれ400m、150mの調査線を設定した。

7 a 北

浅い砂地が続き、270mあたりからサンゴが出始める。380mからリーフフラットとなる。藻場はよく発達している。リュウキュウスガモ、ベニアマモが主体で、ウミジグサは岸寄り、ウミヒルモは沖寄りに多く、ボウアマモは藻場の中心部に多い。海草湿重量は、180g/m<sup>2</sup>、720g/m<sup>2</sup>、2,630g/m<sup>2</sup>とバラツキがあるが、350mの2,630g/m<sup>2</sup>は今回の調査中とび抜けて高い。

7 b 西

リーフエッジまで200m位しかなく、100mからリーフフラットになる。その手前は砂地で40~90mに藻場がありベニアマモとリュウキュウスガモが優勢でウミジグサとウミヒルモが少しある。藻場の周辺は波によって砂が削られており、根が露出している。

海草湿重量は380g/m<sup>2</sup>と620g/m<sup>2</sup>であった。

2. 水質

表1に各調査地点の水質測定結果を示す。水質と塩分濃度はYEO-KAL製ポータブルT-S

表1 水質測定結果

	基点からの距離 m	水温 °C	塩分濃度 ‰	PH	DO ml/l	PO <sub>4</sub> -P μg-at/l	NO <sub>3</sub> -N μg-at/l	NO <sub>2</sub> -N μg-at/l	NH <sub>4</sub> -N μg-at/l	COD ppm	採水年月日
島尻(1)	200	24.2	33.95	8.9	5.01	0.07	0.25	0.03	0.33	0.37	1982.10.27
大浦湾奥(2a)	100	27.5	32.25	8.9	7.24	0.05	0.19	0.02	0.02	0.89	1982.10.28
	リーフ外	26.6	33.72	8.7	4.59	0.02	0.09	ND	0.10	0.45	"
大浦湾奥(2b)	200	26.8	33.18	9.0	7.80	0.01	0.66	0.07	0.29	1.56	"
与那覇湾(3)	100	30.7	34.12	8.9	6.71	0.04	0.18	0.05	0.83	2.62	1982.9.16
	200	31.5	33.92	8.8	7.16	0.04	0.38	0.03	1.14	3.44	"
保良(4)	200	26.9	33.79	8.6	4.00	0.04	1.31	0.07	0.02	0.53	1982.10.29
	リーフ外	27.4	33.92	8.8	4.94	0.19	0.62	0.07	0.36	0.58	"
佐和田北(5a)	200	29.0	34.10	8.8	4.73	0.04	0.31	0.05	ND	3.19	1982.9.17
" 黒浜(5b)	200	30.0	33.95	8.8	5.44	0.03	0.05	0.02	0.31	3.21	"
" 南(5c)	200	31.0	33.13	8.9	5.63	0.04	0.61	0.04	ND	1.22	"
水納島(6)	200	28.3	-	8.9	5.31	0.05	0.37	0.02	ND	3.29	1982.10.5
	リーフ外	28.7	-	8.9	5.53	0.05	0.20	0.05	0.17	4.10	"
多良間島北(7a)	200	29.7	-	8.8	6.01	0.05	0.82	0.07	0.76	2.05	1982.10.4
" 西(7b)	150	-	-	-	-	0.07	0.25	0.05	ND	3.50	1982.10.6